

様式1

学校名 板橋区立志村第一小学校

校長氏名 高橋 宏彰

令和7年度 板橋区立学校経営計画表・自己評価表・学校関係者評価表

学校教育目標	○健康で心豊かな子ども ○よく考え工夫する子ども ○ねばり強くやりぬく子ども ○進んで協力する子ども
目指す学校像 落ち着いた学校、通ってよかった・通わせてよかった・務めてよかったと思える、愛される学校	
目指す児童像 「かがやけ！ 志一の子」(かんがえる子 がんばる子 やさしい子 けんこうな子)	
目指す教師像 「気付き」「考え」「実践する」教職員	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		取組(努力)指標評価	成果指標評価	分析コメント	改善策
				取組(努力)指標	成果指標				
学力の向上・定着	①児童の、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ②児童の、課題を主体的に解決する力の育成	①児童の、読む・書く・考える計算する力の定着 ②各教科等の指導における、主体的に学び、協働的自らの考え方を深める力の育成 ①児童の、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ②児童の、課題を主体的に解決する力の育成	①児童の、読む・書く・考える計算する力の定着 ②各教科等の指導における、主体的に学び、協働的自らの考え方を深める力の育成 ①児童の、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ②児童の、課題を主体的に解決する力の育成	4 準備教室 各学級実施 年間20回以上	4 東京ベーシック・ドリル 第5・6学年算数 診断テストC 得点率8割以上	3	4	2	3
				3 準備教室 各学級実施 年間10～15回	3 東京ベーシック・ドリル 第5・6学年算数 診断テストC 得点率6～8割				
				2 準備教室 各学級実施 年間5～9回以上	2 東京ベーシック・ドリル 第5・6学年算数 診断テストC 得点率5～6割				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
				①清水図書館や図書ボランティア、近隣幼稚園との連携による読み聞かせ活動の推進 ①保護者による読み聞かせ及び委員会児童、教員による読み聞かせの実施	4 計画した全ての取組を実施				
			①清水図書館や図書ボランティア、近隣幼稚園との連携による読み聞かせ活動の推進 ①保護者による読み聞かせ及び委員会児童、教員による読み聞かせの実施 ②校内研究における「個別最適×協働」型の授業デザインの実践 ②「授業スタンダードSJ等に基づいた、ITO（習得・考え方・表現）を繰り返す授業実践	3 計画した全ての取組 9割以上実施	3 11月児童アンケート 「本を読むのは好きですか」肯定的評価6～7割	2	4	3	○学校経営方針への、「読み聞かせ活動の充実」の位置付けの継続 ○本好き児童を増やすための、図書委員児童発案企画の実施
				2 計画した全ての取組 8割以上実施	2 11月児童アンケート 「本を読むのは好きですか」肯定的評価5～6割				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
				②校内研究における「個別最適×協働」型の授業デザインの実践 ②「授業スタンダードSJ等に基づいた、ITO（習得・考え方・表現）を繰り返す授業実践	4 全学級での実施				
				3 全学級9割以上の学級で実施	3 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の（小学生）能力値8項目中、全国平均以上6項目以上				
連携・協働の充実	①家庭・地域・近隣学校・関係機関と連携した取組の充実 「地域とともにあらわる学校」 「学校を核とした地域コミュニティづくりの推進」	①コミュニケーションスクール推進に向けた全教職員の意識高揚及び行動連携 ②郷土を愛し、地域に貢献する人の育成	①ICSへの教職員参加～カリキュラムセンターを活用した熟議 ①ICS委員と代表委員児童による熟議 ①ICSの取組に係る趣旨及び内容についての教職員周知 ①ICS使いを活用した行動連携	4 全学級での実施	4 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の（小学生）能力値8項目中、全国平均以上6項目以上	3	4	4	○基礎的読解力の育成を意識した授業デザインを意識した実践に力を置くことで、成果指標としたリーディングスキルテストで良好な結果を得ることができた。特に文と非言語情報（図表など）を正しく対応させる力「イメージ同定」は全国平均を大きく上回ることができた。
				3 全学級9割以上の学級で実施	3 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の（小学生）能力値8項目中、全国平均以上4～5項目以上				
				2 全学級8割以上の学級で実施	2 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の（小学生）能力値8項目中、全国平均以上2～3項目以上				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
				②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部（学校おうえんだん）等との連携・協働	4 各学級 連携・協働回数 年間の6回以上割合 8割以上				
			②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部（学校おうえんだん）等との連携・協働	3 各学級 連携・協働回数 年間の6回以上割合 6割以上 8割未満	3 11月児童アンケート 「地域や外部と連携した授業」肯定的評価8割以上9割未満	3	4	4	○ICS委員と教職員、ICS委員と代表学年児童が熟議を行う会の継続実施 ※熟議内容は、事後の朝会等で全児童へ伝達する。また、その際出た意見を元に委員活動等の充実を図る。
				2 各学級 連携・協働回数 年間の6回以上割合 5割以上 6割未満	2 11月児童アンケート 「地域や外部と連携した授業」肯定的評価7割以上8割未満				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
				①ICSへの教職員参加～カリキュラムセンターを活用した熟議 ②郷土を愛し、地域に貢献する人の育成	4 具体の方策の全実行				
				3 具体の方策の2～3点実行	3 11月児童アンケート 「ICS委員会熟議や活動の理解」肯定的評価6～8割				
気付き考え方実践する教職員	○「気付き」「考え」「実践する」学校・教職員をめざした、教職員の働き方改革の推進	①か月あたりの時間外勤務45時間以内の実現（1日あたり時間外勤務2時間15分が目安） ②学校業務の質の向上及び精選、業務の平準化	①出勤退勤時間管理 ①定期退勤日の設定（毎週水曜日：18時までの退勤）と徹底、17時30分までの電話対応の徹底 ①学期始・終の午前授業の実施（通年）、土曜授業実施後の振替休業日の設定（年4回）	4 9割以上の教職員による取組の徹底	4 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比較して、6割減少	3	4	2	○スクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、ボランティア、副担任を活用した支援体制の充実 ○学校行事等の時期の分散 ○会議等の精選 ※特に、不定期に複数回行われることが多い学年会の実施を週1回程度にする。
				3 8割以上の教職員による取組の徹底	3 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比較して、5割減少				
				2 7割以上の教職員による取組の徹底	2 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比較して、4割減少				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
				②各教員及び校務分掌各部が考え方・実践する、働き方改革資する取組の充実 ②副担任制の質的向上（事務作業、児童対応等の分担） ②ICT機器を活用した校務改善	4 全教職員による取組の徹底				
			②各教員及び校務分掌各部が考え方・実践する、働き方改革資する取組の充実 ②副担任制の質的向上（事務作業、児童対応等の分担） ②ICT機器を活用した校務改善	3 全教職員9割以上による取組の徹底	3 11月教職員アンケート項目 「学校業務全体の改善」肯定的評価6割以上8割未満	3	4	3	○学校業務改善については、ICT等の活用や外部人材の利用、業務の見直し・改善を進めることはできたが、業務改善への教職員の意識は確実に高まっているが、全体として推進していく力強さは十分ではない。
				2 全教職員8割以上による取組の徹底	2 11月教職員アンケート項目 「学校業務全体の改善」肯定的評価5割以上6割未満				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
				①児童が主体的に人と関わり、より良い人間関係を構築できる力、人のために役立つ生きる「人間力」の向上	4 全教職員による取組の徹底				
				3 全教職員9割以上による取組の徹底	3 11月児童アンケート項目 「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満				
豊かな関わり・規範意識の醸成	○自尊感情・自己肯定感の高揚及び社会規範の育成 ○基本的生活習慣の定着及び、相手を尊重する気持ちの醸成	①児童が主体的に人と関わり、より良い人間関係を構築できる力、人のために役立つ生きる「人間力」の向上 ②誰一人取り残さないための居場所づくり、誰もが安心して学ぶことができる学校生活の実現	①綱引き遊び等の裏学年交流の充実 ①全学級挨拶運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定	4 全教職員による取組の徹底	4 11月児童アンケート項目 「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割	4	4	4	○課題改善に向けた、児童会主導による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
				3 全教職員8割以上による取組の徹底	3 11月児童アンケート項目 「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満				
				2 全教職員8割以上による取組の徹底	2 11月児童アンケート項目 「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満				
				1 2の指標に満たない	1 2の指標に満たない				
			②WEBQIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全学級による改善の実施	4 不登校児童0人	3	4	4	○不登校児童・不登校傾向児童への、早期段階における「登校支援シート」の作成と、組織的活用
				3 全学級9割以上の実施					